

平成29年度 学校評価表（自己評価・学校関係者評価・第三者評価）

白樺学園高等学校（全日制普通科）

基本方針	<学園訓>「公德実践」:人として正しい考えを身につけ、人々のために尽くし、もって社会の発展に貢献する。
教育目標	1. 確かな学力と感性豊かな心、強い体を持つ生徒の育成。 2. 社会の変化に対応し、たくましく生き抜く精神力を備えた生徒の育成。 3. 失敗を怖れず、何事にもチャレンジする意欲を持った生徒の育成。 4. 真の文武両道を目指す生徒の育成。 5. 明るく挨拶の出来る生徒、「ありがとう」と感謝の気持ちを素直に伝えられる生徒の育成。

平成29年度 学校経営方針	
○あらためて教師たる者としての自覚に立ち、いやしくも生徒・保護者の信頼を裏切るような行動は厳に慎むこと。	
○教育の原点は、「個」にあり、親の気持ちになって、ひとり一人の生徒と真剣に向き合うこと。	
○Inout(入学者の数)よりOutput(卒業生の質)が大事。これにより地域の評価を高め、Inputにつなげる好循環を作り出すこと。	

達成度	
十分に達成	4
概ね達成	3
やや不十分	2
不十分	1

分野	領域	自己評価				学校関係者評価			
		評価項目	具体的方策	H28	H29	H28	H29	意見・要望	
学校運営	校務運営	1	学校運営方針の共通理解と協力的態勢の形成・実践。	校務運営委員会・各分掌・教科・学年会議は、目的を明確にして実施する。情報共有(ペーパー化)と「チーム白樺」の組織力アップ。	3.1	2.9	3.3	3.5	●特に不満なし
	教員体制	2	教員の意識改革・サービスの遵守・適切な教員配置・実践的指導力の向上。	信頼回復に向け、教員の服務規程遵守・職務意識の高揚を研修会や講習会等で図る。	2.9	2.7	2.8	3.1	●特に不満なし
	学校改革	3	学校評価におけるPDCAマネジメントサイクルの機能化と情報公開。	自己評価・関係者評価を実施し、新たに第三者評価を加え、課題を確認し、評価結果を公開し、次年度へつなぐ。	3.3	3.1	3.1	3.5	●特に不満なし
学習指導	授業方法	4	授業方法の工夫・改善による理解できる授業の展開。生徒達が主体的・対話的に学ぶ授業の展開。	学年教科会議や成績会議による相互評価、研修・研究を推進する。AL型授業を積極的に取り入れ、意欲と理解度の向上を図る。	3.0	2.8	2.6	3.3	●ICT機器を利用した授業が浸透してきているので、更に有効活用した授業を期待したい。
	基礎学力	5	基礎学力の定着を重視し、到達度の低い生徒に対する適切な取り組みを行う。	クラス分析・生徒個々の把握・ICT機器を活用した教育の推進。わかる喜びを与え、やる気を醸成。	2.7	2.6	2.6	3.3	●特に不満なし
進路指導	調査・面談	6	進路希望調査の実施、個人面談・三者面談による生徒理解と分析。	担任・進路担当により、希望調査を踏まえた面談で進路対策指導を行う。	2.8	3.0	3.5	3.5	●特に不満なし
	進路分析	7	就職先・進学先についての情報の蓄積と共有。	企業訪問・大学訪問・受験報告等の情報分析を行い学年単位で情報を共有する。	2.8	3.0	3.3	3.5	●情報提供が乏しい分野もあるようなので、是非改善をお願いしたい。
	職業観育成	8	生徒の職業観・進路意識の育成。	各種セミナー、講習、インターンシップ等の取組の量的・質的向上を図る。	2.8	3.0	3.1	3.3	●特に不満なし
	推進力の強化	9	3年間を見据えた進路計画の設定と実施。推進力を発揮し各学年をリード。	学年団との連携を密にし、必要な情報提供を行い、学年をリードする。	3.4	2.8	3.0	3.3	●特に不満なし
行事の充実	生徒会行事	10	自発的、自治的な組織活動の指導。	執行部とHRの連携、HR活動の活性化・仲間作りに発展する行事の取組を行う。	2.9	2.6	3.5	3.6	●特に不満なし
	学校行事	11	愛校心・道徳心・社会性・公共性・安全性等を育む行事づくり。	目的・狙いに対して適切な手立てや工夫をこらした行事を追求する。	2.9	2.9	3.5	3.5	●特に不満なし

		自己評価					学校関係者評価				
分野	領域	評価項目	具体的方策	H28	H29	次年度への課題		H28	H29	意見・要望	
いじめ防止対策	方針の立案	12	学校としていじめに対応する方針の作成	いじめ防止対策のための方針を作成し、それを職員室及び生徒・父母に周知する。	3.2	3.4	●アンケート等で調査を行い、対策ができていない。●アンケートを含め、小さな出来事に対しても、反応できていても助かった。●いじめの芽、兆候も含め、いじめの定義に対する共通理解を持つ必要がある。	3.8	3.8	●特に不満なし	
	防止対策の組織化	13	いじめ防止のための対策と早期発見・早期解決	いじめに対する方針の作成や防止対策を担う組織(防止対策委員会)を機能的に運営する。いじめの定義と認知への共通理解。	2.7	3.2	●アンケートが有効活用されている。●スピーディーに行われている。●QUTの結果が遅いので、別な調査方法が必要。●いじめは水面下という視点を忘れずにいたい。●部活内のいじめは外からは分かりにくい、情報共有が大切。●対策をとっているが、早期発見できているのかは分からないが、早期解決はできている。	3.5	3.6	●特に不満なし 引き続き、早期発見・早期解決をお願いしたい。	
	防止対策	14	いじめ防止対策委員会を中心に、防止のための調査や対策を検討する。	具体的な防止対策の動きや定期的ないじめの調査を実施する。	3.1	3.5	●定期的ないじめ調査を行う。●手は打っている。●スピーディーにやられていた。●些細なことでも早めに対応し、芽を摘んでいた。	3.4	3.6	●特に不満なし	
生徒指導	指導体制	15	全教員が方針のもとに、一貫性を持った指導体制の構築。	生活指導部通信の発行と呼びかけ(他項目も同じ)、全教員での月毎の玄関指導・駐輪場指導。学年団の組織力と一貫した指導。	2.4	2.5	●生徒の質がある程度向上しているため、教員の生活指導に対する意識が低下しているかもしれない。●全教員が生活指導をするという意識が低かった。●指導部まかせにしない。学年団の連携が必要。	2.8	3.0	●生徒、保護者からも指導のばらつきが感じられるという声があるので、一貫した指導への改善をお願いしたい。	
	規範意識	16	実社会で通用する人間性の教育。挨拶の励行と、場面に応じた正しい言葉遣いの指導。	全教員による日常的な生徒指導。校内・外生活での問題行動を防止するための啓蒙。	2.4	2.5	●進学教養コースの部活動の活性化による生徒指導の向上。●年間を通して、一定の高いレベルでの指導がこれからの課題。●頭髪・服装指導で温度差を感じる、共通の認識をもっと固めるべき。	2.8	3.3	●アンケート評価が低い項目となっているので、生徒のためにも適切な対応ならびに指導をお願いしたい。	
	生活指導	17	校則に基づいた頭髪指導、服装指導、集団への帰属意識。	毎月の全校集会での頭髪服装検査に向けての事前指導と事後指導の実施。	3.1	2.7	●良い傾向である。●日々の授業の中でも頭髪・服装のチェックを行う。●指導部と担任で事前指導に力を入れるべき。●頭髪服装違反は悪いと分かってやっているの、対策が必要。	3.1	3.3	●特に不満なし	
	安全指導①	18	登下校時の自転車運転マナーと盗難防止。ネット関連・薬物等の事故未然防止のための啓蒙。	交通安全指導、自転車の2重施錠の指導。青少年問題に関する特別講演の実施。	2.7	2.8	●講演を継続して行う。●形式的になっており、効果が見えない。工夫が必要。●駐輪場・玄関・靴箱に防犯カメラの設置を。●バスの乗車マナー等の指導が必要。●2重ロックは全体的には不徹底。	3.0	3.3	●特に不満なし	
	安全指導②	19	教育相談室、家庭との連携、外郭団体との連携、研修。	学校カウンセラーの生徒支援。家庭連絡・訪問の実施。高生連・生指連等との連携・研修参加。	3.0	3.2	●今野相談員と担任との連携強化。●今野相談員が見回りをしたり、相談に乗ってくれているので感謝している。●高生連・生指連の情報も教員に公開すべき。●全教員での情報共有が大切。	3.0	3.3	●特に不満なし	
環境施設	保健・美化	20	学校の美化・衛生面の充実と生徒の健康。省エネ・エコの取組と生徒指導。	厚生部・生徒会厚生委員会・PTA施設部を中心に、HR単位での美化・衛生・エコに取り組む。	2.8	2.7	●LED化による電気代の削減がどれ位かをチェックする。●ゴミ分別はまだまだ意識が低い。●生徒・教員の教室美化への意識づけが必要。●各階にアルコール消毒液を置きたい。●教室をもっと綺麗にしたいが、専攻体育前の時間が足りない。	3.3	3.5	●体育館がLED化されたので、今後は教室を含め、学校施設全体のLED化に期待したい。	
	施設・設備	21	学習環境の充実・施設・設備の点検・補充。学校バス路線拡充。	障害者への合理的配慮がなされた設備と環境づくり。分掌・教科・担任での点検を行うと共に、生徒への公共心を養う。学校バス路線拡充による効果と影響力。	3.2	3.2	●おおむね達成されている。●第一情報処理室のPCが古くなってきた。●ICT機器について不整備教室を整備していく。●学校バス路線を拡充しても、生徒増にはならない。学校のレベルアップ。●部活下校バスは非常に有り難い。●公務補の方々に感謝している。	3.3	3.6	●特に不満なし	
地域との連携	学校開放	22	本校の校舎施設を地域に開放し、地域貢献に努める。	3年計画リニューアルに伴い、トレーニング室をはじめ、体育館・グラウンドの運動施設、特別教室など依頼に応じて開放する。	3.4	3.3	●本校生徒の活動に支障をもたらさない程度に施設の貸出を行う。●大きな課題である、ある少年団に貸し出した時、大変喜ばれた。●更なる器具の充実を期待。●器具は充実しているが、使い方の指導、日常的な点検と管理体制の確立が必要。	3.6	3.9	●特に不満なし	
	連携・協力	23	地域の教育行政、各種文化団体、ボランティア団体等との協力・連携。	芽室町・帯広市の教育行政や、地域の要請に対して可能なものは協力的に連携を図る。	3.3	3.1	●JICAとの連携による異文化交流、異文化理解の浸透。●マウイ高校との英会話プロジェクトの継続。●芽室町議会への参加は良かった。次年度は公民科を連携させていきたい。	3.6	3.6	●特に不満なし	
	情報公開	24	本校の教育実践や成果をHPや広報誌等で積極的に発信する。	本校ホームページ・学園便り・PTA便り・体文ニュース・各分掌からの通信の内容充実。	3.3	3.4	●HPはよく更新されている。●進学教養コースの活躍をより多く取り上げる。●継続されていることが良い、校長通信も良いと思う。	3.8	3.9	●適宜更新されているので、今後も継続してもらいたい。	
総体評価	学校教育目標	25	全ての生徒に親切的な教育、楽しく魅力ある学校生活を実現する。	教育目標を達成すべく、教職員がそれぞれの持ち場で工夫・努力する。	3.1	2.9	●教科力の強化、現状の生徒に合うカリキュラムの再考。●もっと工夫できるのでは。改善の余地を意識できていないのでは。●親切的な教育を再認識し、具体的な案を方針に盛り込む。●努力している教員との差が大きい。●教員数増と適材適所への配置を。	3.1	3.3	●特に不満なし	
	学校評価	26	継続的な学校改革の推進を図る。	現状から将来へ向け、重点目標の検討、適切な評価項目の選定を行い全教員で取り組む。	3.0	3.0	●未来へ向けて、新しいことができてきている。●改革意識は良いと思う。全職員でより良い学校にしていきたい。●学校が目指すべき姿を明確にすべき。●毎回同じ反省をしているような気がする。	3.1	3.4	●今後の学校発展に期待してる。	
				平均	3.0	3.0			平均	3.2	3.4

学校評価アンケート結果(生徒・保護者)及び自己評価委員会のまとめ	
<p>学校評価を取り組んで5年目になる。保護者からのアンケートの回収率は87%で、昨年と比較すると若干上昇した。(H28は86%) 総対度数で75%以上は良い評価、75%以下は改善が求められる評価として判断した。アンケートの項目で高い評価を得ている、ICT機器の効果的な使用、いじめ防止対策、情報公開(HP)、生活指導(頭髪・服装)、環境設備(体育館LED化等)、今後も高い評価を継続できるように取り組んでいきたい。昨年に続き低い評価となっている丁寧な学習指導、基礎学力の定着、主体的に学ぶ環境づくり、生活指導(言葉遣い・規則やモラルを遵守する指導)は特に生徒からの評価が低く、2年連続で低い評価となっていることは、改善がされていないという事なので、重く受け止め、改善しなければならない。生徒・保護者が満足していく学校生活を送る事ができるよう、学級経営・教科指導・進路指導等に反映させて行かなくてはならない。意見・要望は大変貴重な内容であり、本校の地域からの信頼と発展のためのものと受け止め、学校改革を更に進めていきたい。</p>	
<p>【学習指導:授業方法】 ・更なるICTを有効活用した教育と主体的・対話的な深い学びの授業の積極的な実践による丁寧で理解できる授業と基礎学力の定着。</p>	<p>全教室にWi-Fiが設置され、環境は更に整備されている。ただICT機器の有効活用は進んだが、主体的・対話的な深い学びの授業を実践している教員が少ないのは問題である。授業の工夫や改善が必要であり、丁寧に理解できる授業に関しては、生徒からの評価も低い。学力アップと学び直しによる基礎学力定着は教員の指導力も問われる。日常的な教材研究はもちろんの事、積極的に研究会、研修会へ参加し、指導力を向上させ、わかる喜びや学ぶ事の楽しさからの意欲の向上。基礎学力の定着と学力向上につながる学習指導法の研修に努め実践して行く。</p>
<p>【生徒指導:指導体制】 ・全教員の一貫した生活指導といじめの未然防止と早期発見・早期解決のための取り組みの継続。</p>	<p>本校ではいじめに関して、重大事案につながる事案は無かった。定期的ないじめアンケート調査やQUTテストを実施し、情報共有しながら些細な事案についても聞き取りや調査を行い、早期発見・早期解決につながっていた。いじめ防止対策委員会を中心に組織的な動きは前進した。今後も生徒が安心・安全に学校生活をおくるためにも、取り組みを継続して行く。生活指導では、教員間の意識のずれがあり、指導に一貫性が無く、生徒・保護者も戸惑いを感じている事が問題である。指導部任せにせず、全教員の意識を高める必要がある。</p>
<p>【学校運営:意識改革・服務遵守。進路指導】 ・体罰、セクハラ等の不祥事を起こさない。定期的な研修。地域から信頼される学校づくり。</p>	<p>体罰に関しては、体罰にあたる行為を全教員が理解しておく事が第一であり、あってはならないことである。3月に教員の不祥事に関する研修会を実施した。その研修が無駄にならぬよう、互いを注意しあえる人間関係の構築を図って行きたい。生徒・保護者の信頼を裏切るような行為は厳に慎むこと。分掌や学年団そして保護者との連携、情報の共有を心がけ諸問題の未然防止、早期発見、早期解決に協調性をもって臨む。進路決定100%を目指した日常的な指導や進路希望に応じた情報提供等の取り組みを実践して行く。</p>
<p>※新年度の学級経営や教科指導ならびに部活指導に学校評価を反映させるよう、お願い致します！</p>	
<p>※前年度の「教員研修の充実」と「LHRの計画的な有効活用(生徒会行事・学校行事充実のため)も継続して取り組みます！</p>	

学校関係者評価委員会のまとめ	
<p>【学習指導:授業方法】 ・丁寧な学習指導</p>	<p>学校評価アンケートにおいて、「本校の授業は丁寧に理解できる」という項目の肯定的回答が最も低かった。本校では基礎学力定着を目指し、学び直し期間の設置や基礎力診断テストの実施をしているが、普段の授業の質を上げなければこの取り組みの効果も期待できない。普段の授業から、基礎学力向上を目指した丁寧な学習指導の実践が必要である。</p>
<p>【生徒指導:指導体制】 ・一貫した生徒指導</p>	<p>教員間における指導基準ばらつきが大きく出ていると学校評価アンケートの分析において指摘があった。各教員で校則の再認識の徹底及び基準の確認と、社会におけるマナーやモラルを鑑みた日々の指導を求める。</p>
<p>【環境整備:施設・設備】 ・学校バス充実の継続</p>	<p>バス停数の増加等、より便利になっており、今後も継続してもらいたい。バス乗車マナーの悪さが指摘されており、学級担任も含めた教員全体で指導に当たってもらいたい。</p>

第三者評価委員会のまとめ	
<p>【学校改革】 ・白樺の特色をアピール</p>	<p>ハワイマウイ高校との授業連携や修学旅行の改革など白樺高校で行っている様々な取り組みを、白樺高校関係者だけでなく、より多くの人たちに知ってもらえるような機会を数多く設け、白樺高校のイメージをより良い方向へ結びつけて欲しい。また、教員からの積極的な意見を取り入れていくと共に、採用したアイデアをどのように継続させていくかについても、これから求められる課題である。</p>
<p>【学校運営】 ・信頼関係</p>	<p>在校生や卒業生、または保護者が白樺高校を自慢できるような学校づくりが大切である。その為に、丁寧な学習指導や進路指導を始め、保護者アンケートについても回答や具体的な取り組み等を公開したりするなどの対応をしながら、信頼関係を築いていく必要がある。</p>
<p>【生徒指導】 ・社会常識を鑑みた指導</p>	<p>常識的行動やマナー・モラル、基礎学力等を含め社会で必要とされている力は何かを考慮しながら、日々の生活指導及び学習指導に当たるべきである。教員は、熱意を持ち且つ一貫した指導を徹底し、教員生徒間のより良い信頼関係を築いてもらいたい。</p>